

「マイクロレデンシャル共創フォーラム2026」の振り返り

飯吉 透

一般社団法人日本マイクロレデンシャル機構 副理事長・事業運営委員長
京都大学 学術情報メディアセンター/大学院教育学研究科 教授

マイクロクレデンシャル 共創フォーラム2026

～高等教育再生と産業人材育成を推進する
スキル重視社会の実現へ～

マイクロクレデンシャル共創フォーラム2026@日本記者クラブ 2026年7月21日



フォーラム趣旨

マイクロクレデンシャル共創フォーラム2026

政策課題としてのマイクロクレデンシャル

高等教育改革、リカレント教育、リスキリング、成長分野人材、地域人材、国際化、デジタル学修歴の可視化といった政策課題の中に、マイクロクレデンシャルを位置づける。

社会実装基盤としてのJMICRO

標準化、質保証・承認、レジストリ、国際連携、産学連携というJMICROの各委員会活動を、マイクロクレデンシャルの信頼性・透明性・通用性を支える社会基盤として示す。

利用者目線での具体的価値

大学、専門学校、高等専門学校、企業、学協会、学習者、行政にとって、この取組みに参加することで何が実現できるようになるのかを具体的に示す。

マイクロクレデンシャルが求められる
政策的・社会的背景や導入課題を共有



マイクロクレデンシャル共創フォーラム2026

日時：2026年7月21日（火）13:00～17:30（開場 12:30）

会場：ハイブリッド開催

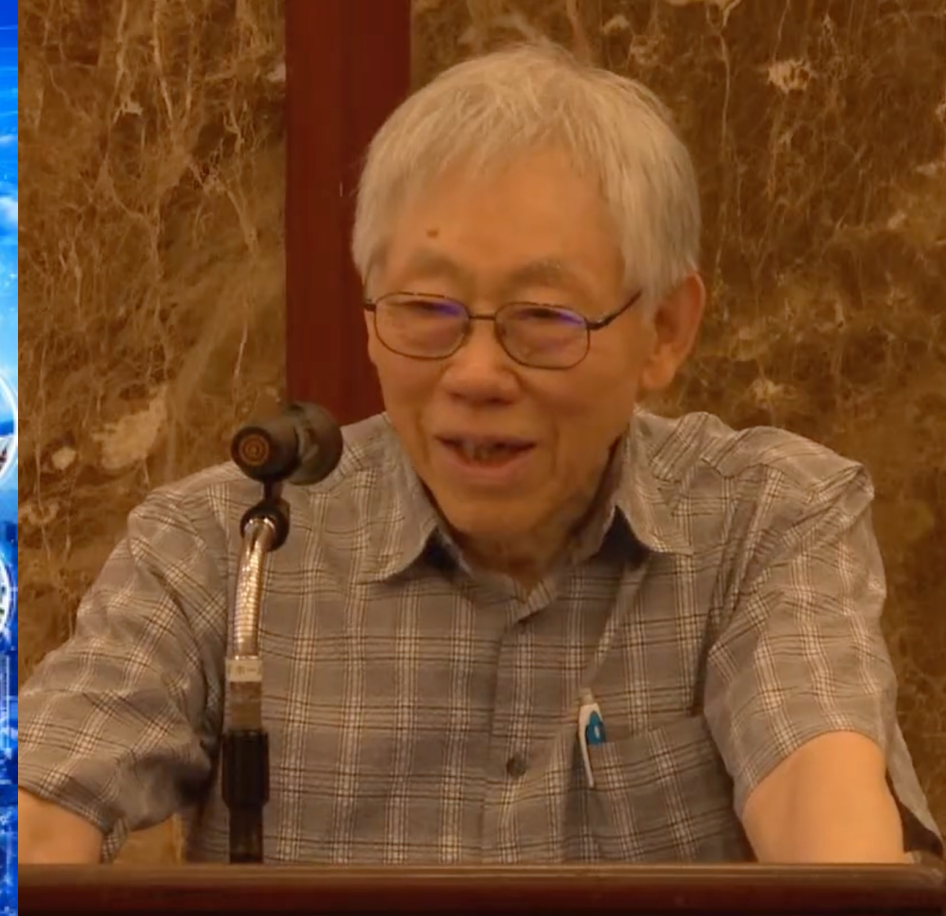
日本記者クラブ会議室（日本プレスセンタービル）

YouTube Live配信・事前参加登録数 200+ 名

時間	内容	
13:00-13:10	開会挨拶：JMICOの設立趣旨と2026年度本格始動	白井理事長
13:10-13:35	基調講演1：2040年社会と高等教育の役割	文部科学省高等教育局 高等教育政策室 寺坂室長
13:35-14:00	基調講演2：成長分野への人材シフトとスキル可視化	経済産業省経済政策局 産業人材育成課 橋本課長
14:00-14:15	講演：AI時代におけるスキル重視社会の展望	飯吉副理事長
14:15-14:25	JMICO事業説明	事務局
14:25-14:40	休憩	
14:40-16:10	マイクロクレデンシャル社会実装ワークショップ ～産学におけるマイクロクレデンシャル導入課題とJMICOへの期待～ 14:30～14:40 趣旨説明 15:35～15:55 導入課題の論点整理 14:40～15:00 事前アンケート結果の共有 15:55～16:10 クロージング 15:00～15:35 主要質問への回答・解説	日本マイクロクレデンシャル機構
16:10-16:40	特別講演：国際的なスキル政策とマイクロクレデンシャルの動向	OECD（加藤静香様）
16:40-17:00	本日の全体を通じた質疑応答・ディスカッション	モデレータ 飯吉副理事長
17:00-17:30	閉会挨拶・ネットワーキング	

開会挨拶

一般社団法人日本マイクロクレデンシャル機構
理事長
白井 克彦
(早稲田大学 名誉教授)



- 学ぶ意欲を持つ人が、自らの必要と将来に応じて学びを組み立て、その成果を信頼できる形で社会に示せる仕組みを整えることは、日本の教育力・産業力に関わる重要課題であり、産学官の連携・協力が不可欠である。

基調講演

「2040年社会と高等教育の役割」

文部科学省 高等教育局
高等教育政策室 室長
寺坂 公佑



- 「学修者本位の教育」、「学習成果の明確化」、「大学間連携」、「社会人の学び直し」、「地域人材育成」を進める上で、短期・柔軟な学習単位を質保証し可視化するマイクロクレデンシャルは、高等教育改革を補完する実装手段となり得る。

基調講演

「成長分野への人材シフトとスキル可視化」

経済産業省 経済産業政策局
産業人材課 課長
橋本 泰輔



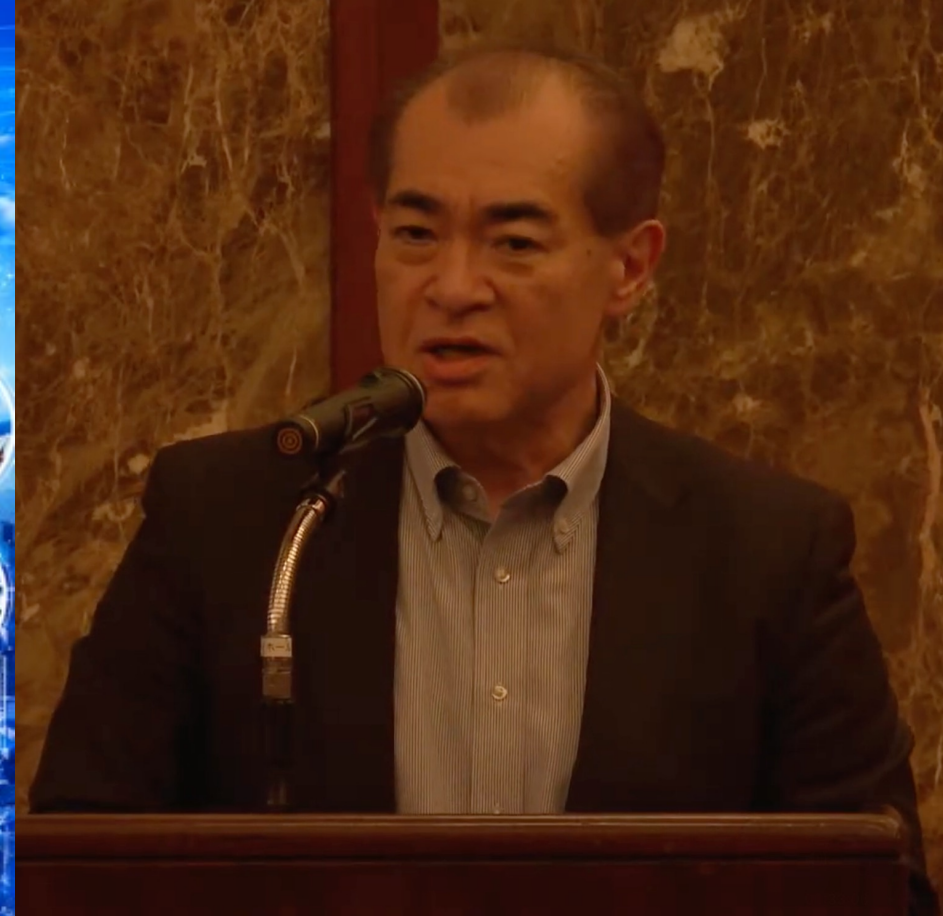
- 職種ごとのスキル需要を、「対応する教育プログラム」、「学習成果の証明」、「労働市場での活用」へつなぐ一貫通貫の仕組みにおいて、マイクロクレデンシャルは「学ぶ内容」と「身に付けた成果」を接続する重要な層となる。

講演

「AI時代におけるスキル重視社会の展望」

一般社団法人日本マイクロクレデンシャル機構
副理事長 兼 事業運営委員長
飯吉 透

(京都大学 学術情報メディアセンター/大学院教育学研究科 教授)



- MCには、①既存学位課程の一部を切り出す型、②共通の質保証・資格枠組みに接続する型、③産業界の需要に応じて新たに設計する型、がある。
- 学位とマイクロクレデンシャルを積み上げた個人の学習歴により、リスキリング、高大・大社接続、産学連携、地域連携、国際通用性等の向上・拡大を通じ、学修履歴と職業・職種の不マッチ解消を図ることが期待される。

マイクロクレデンシャル社会実装ワーク ショップ

～産学におけるマイクロクレデンシャル導入課題とJMICOへの期待～

一般社団法人日本マイクロクレデンシャル機構



井上 雅裕（標準化委員会委員長）

大庭 良介（質保証・承認委員会）

坂口 菊恵（レジストリ委員会委員長）

飯吉 透（事業運営委員会委員長）

- 国際的なスキル政策を日本の大学へ適用する際の社会的責任、理工系重視と人文社会系教育の価値、アウトカムに基づく教育評価、スキル概念の範囲と粒度、共通語彙の整備、AI時代における大学の役割などが議論された。

「マイクロクレデンシャル共創フォーラム2026」
高等教育再生と産業人材育成を推進するスキル重視社会の実現へ
マイクロクレデンシャル社会実装ワークショップ
事前アンケート集計資料

2026年7月21日

一般社団法人日本マイクロクレデンシャル機構



調査概要

1. 目的

「マイクロクレデンシャル共創フォーラム2026」の参加者の関心や課題意識を把握し、「マイクロクレデンシャル社会実装ワークショップ」における論点整理や質疑応答、今後のJMICOの活動検討に活用すること。

2. 調査期間 2026年7月6日（土）～7月18日（金）

3. 回答総数 91

4. 設問内容

Q1. ご所属区分をお聞かせください

Q2. マイクロクレデンシャルについて、現在の理解度をお聞かせください

Q3. 貴機関・貴社でマイクロクレデンシャルを活用とした場合、関心のある領域をお聞かせください

Q4. 導入・活用にあたって不安や課題に感じることをお聞かせください

Q5. JMICOホームページのFAQをご覧になりましたか <https://www.micro-credentials.jp/faq/>

Q6. FAQを見て理解が深まった項目をお聞かせください

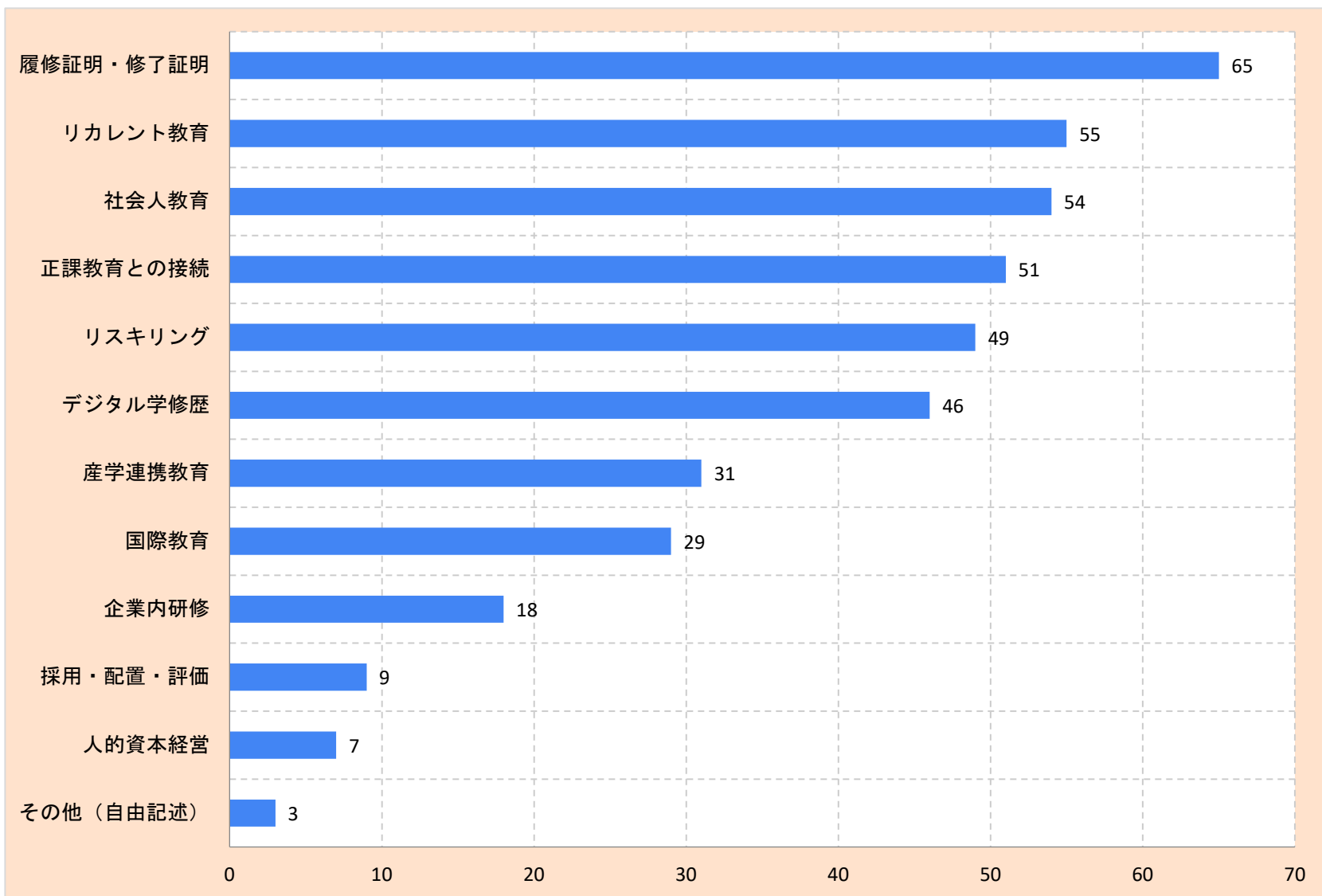
Q7. FAQをご覧いただいて、さらに確認したい点があればお聞かせください

Q8. JMICOに期待する支援や役割をお聞かせください

Q9. 当日のワークショップで特に取り上げてほしいテーマをお聞かせください

Q10. JMICOへの入会・連携について、現在のお考えをお聞かせください

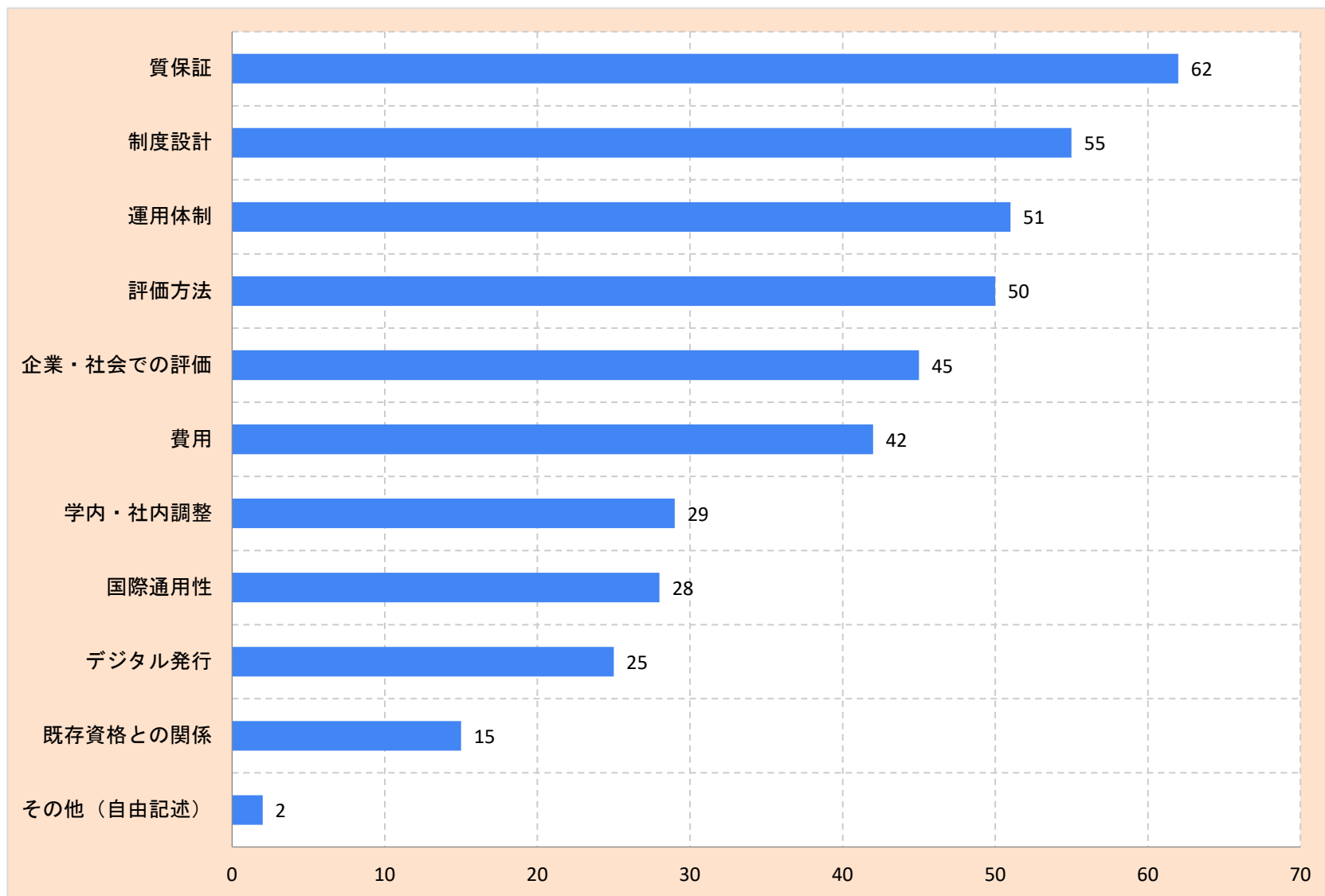
Q3. 貴機関・貴社でマイクロクレデンシャルを活用とした場合、関心のある領域をお聞かせください



その他（自由記述）内容

- ・ 大学間教育連携
- ・ 高大連携
- ・ マイナー

Q4. 導入・活用にあたって不安や課題に感じることをお聞かせください



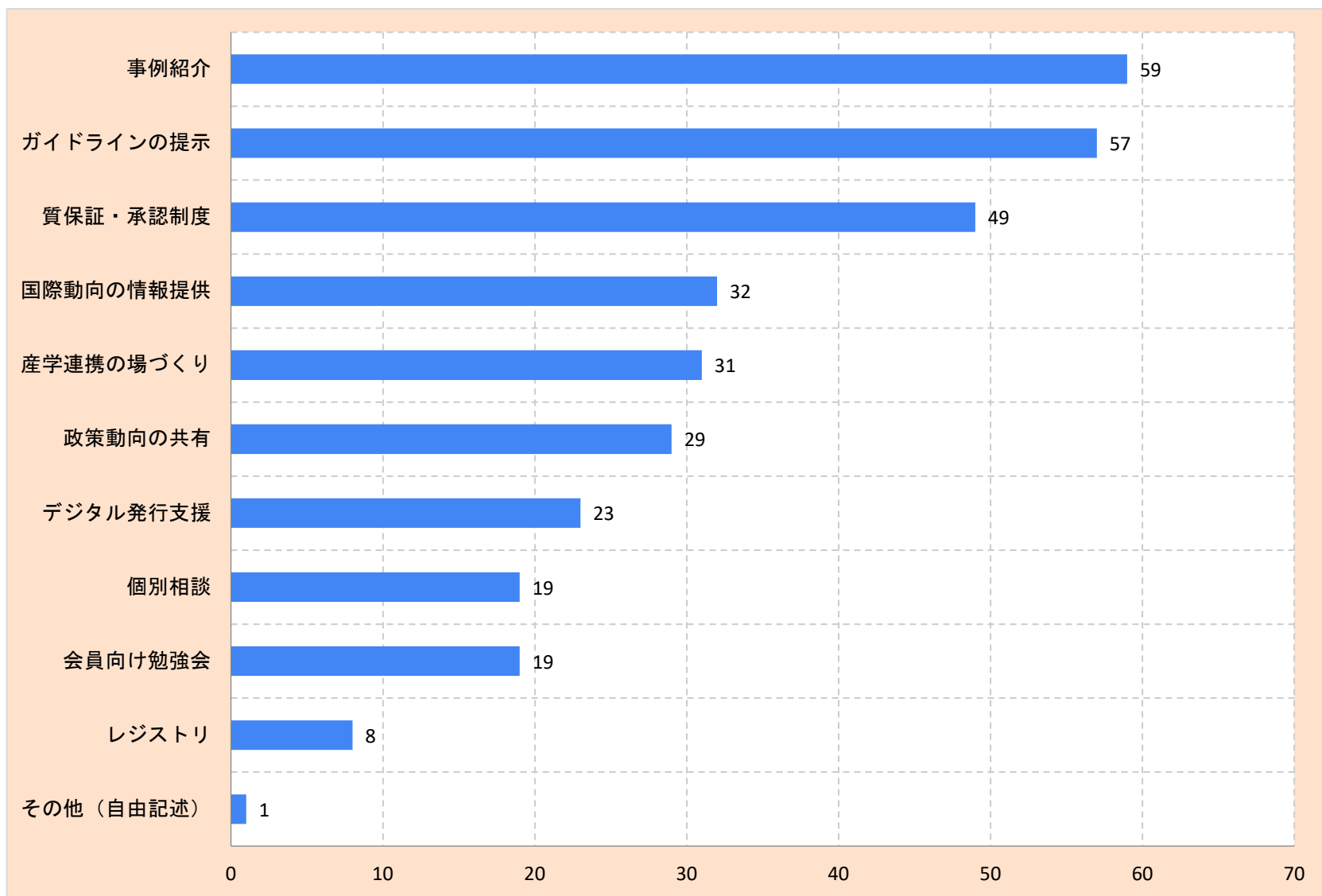
その他（自由記述）内容

- ・ 学歴と同様、取得した機関による評価の違い
- ・ 国家承認の有無

Q7. FAQをご覧ください、さらに確認したい点があればお聞かせください

No.	理解度（Q2）	確認したい点（原文）	所属区分
1	概要は知っている	機関別認証評価における機関の適合認定と、マイクロクレデンシャルとして提供されるプログラムの質保証は別問題のようにも感じるのですが、プログラムの質そのものを評価することはしないということでしょうか。	大学
2	概要は知っている	マイクロクレデンシャルを活用した履修プログラムの設計（構造）のプロセスについて	大学
3	概要は知っている	国際動向と歴史について	大学
4	概要は知っている	国内は労働者の不足が問題ですが、個々の能力を引き出し、発揮できる場があれば、就労人口を増やすことができます。就労に結び付かずにいる人々がたくさんいらっしゃいます。何らかの障害を抱えている方などです。今の社会は、困難を抱える方に環境を整えることができないことが問題です。 ご本人に関しては、自分の能力を発揮できる分野を見つけることが大切です。 そのため、マイクロクレデンシャルは重要視されていかなければならない、と考えます。	大学
5	まだよく分からない	学習歴のデジタル化	その他企業
6	まだよく分からない	レジストリの用語がわからなかった。	大学
7	まだよく分からない	マイクロクレデンシャルとデジタルバッジを両方付与するケースについて	大学
8	まだよく分からない	マイクロクレデンシャルにより、細分化されたスキルを身につけることで、何らかの困難を抱え、現在就業できずにいる方々の就業の場が広がることも視野に入れている、と考えてもよいでしょうか。	大学
9	導入を検討している	現在の履修証明プログラムを認定するのにどう取り組んでいけばよいのか。	大学
10	発行・運用に関わっている	国家承認の有無	大学
11	発行・運用に関わっている	記述子の具体性、質保証の評価基準	大学

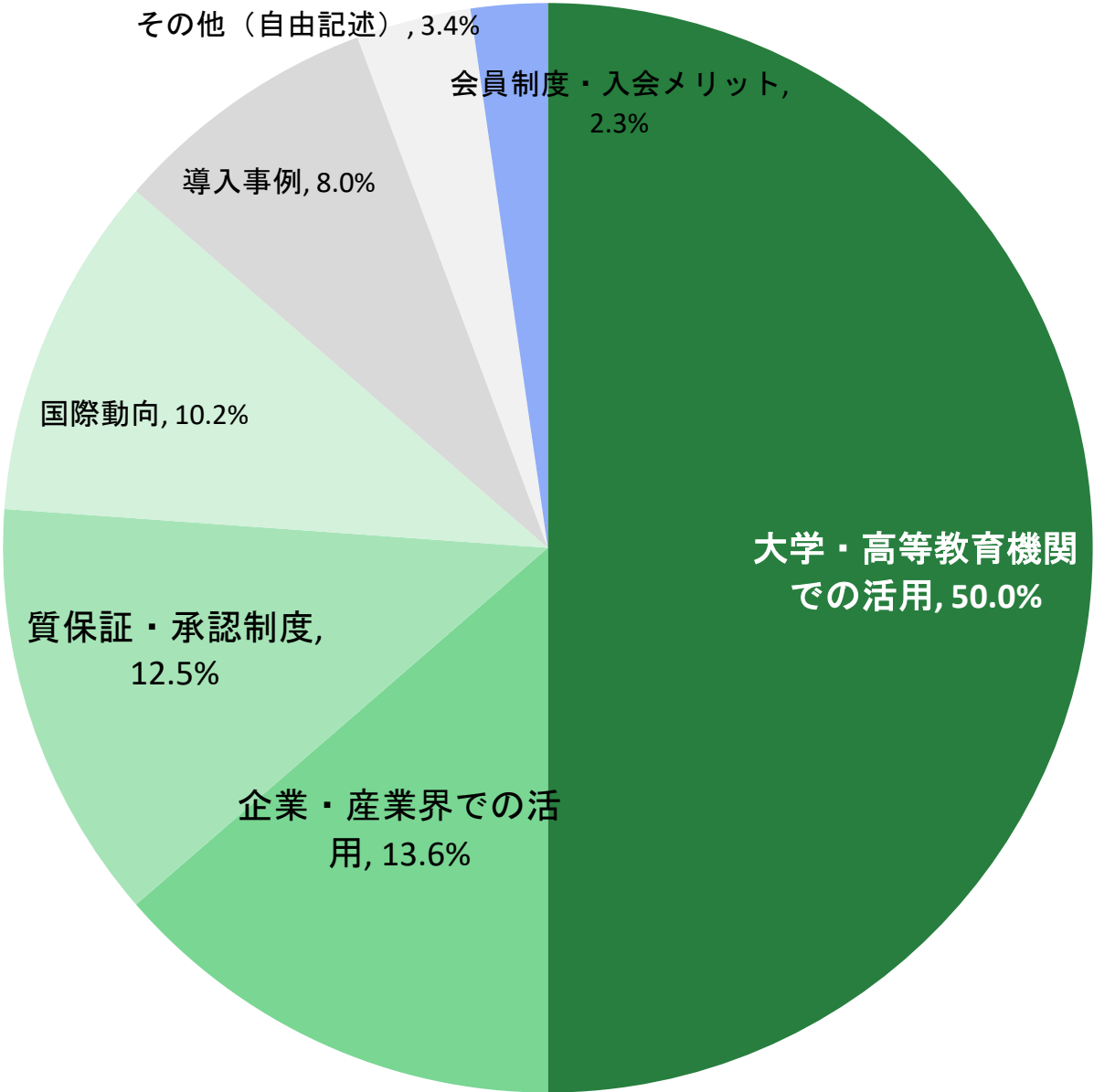
Q8. JMICROに期待する支援や役割をお聞かせください



その他（自由記述）内容

- ・マイクロクレデンシャルの広報活動のポイントを教えてほしい

Q9. 当日のワークショップで特に取り上げてほしいテーマをお聞かせください



選択肢	回答数
大学・高等教育機関での活用	44
企業・産業界での活用	12
質保証・承認制度	11
国際動向	9
導入事例	7
その他（自由記述）	3
会員制度・入会メリット	2

- その他（自由記述）内容
- ・長時間の研修すべてに参加できそうになく、ぜひ事後に見直しができる形で動画配信いただきたいと思います。
 - ・デジタル学修歴・レジストリ
 - ・各国のマイクロレデンシャルの認証制度との違いや相互認証について

特別講演

「国際的なスキル政策とマイクロクレデンシャルの動向」

OECD Policy Analyst, Skills and Future Readiness Division
Directorate for Employment, Labour and Social Affairs

加藤 静香



- 大学が既存科目を分割するだけでなく、学習者・雇用者の需要からプログラムを設計するパラダイムシフトが必要である。
- 成人の職務関連学習への参加率は日本では OECD 平均を下回り、男女差も大きいいため、対象者の属性と生活条件を踏まえた柔軟な設計が必要である。
- 人文社会系を含む学位の価値を否定するのではなく、データ分析等の追加スキルを組み合わせ、AI 時代に必要な複合的人材を育成することができる。

マイクロレデンシャル 活用実践シンポジウム2026

～大学・企業の事例から学ぶ
専門スキル養成と人材育成の最前線～

日程 2026年9月14日(月) 13:00～17:30

会場 御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター
sola city Hall [EAST]

2026年8月12日(水) 参加申込開始

自己紹介

- 主な専門領域：教育イノベーション、高等教育システム、教育工学、オープンエデュケーション等
- カーネギー財団 上級研究員・同知識メディア研究所所長
- 東京大学大学院 情報学環客員教授
- マサチューセッツ工科大学 教育イノベーション・テクノロジー局シニアストラテジスト
- 京都大学 高等教育研究開発推進センター長・教授/教育担当理事補
- 世界経済フォーラム グローバル・アジェンダ評議会委員（「テクノロジーと教育」部門）
- 文部科学省 中央教育審議会委員（大学分科会質保証システム部会）
- 「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン(Plus DX)」事業委員会委員
- 日本学術振興会 卓越大学院プログラム委員会審査・評価部会委員
- 日本学術振興会 大学の世界展開力強化事業プログラム委員会委員
- NHK日本賞審査委員
- 日本オープンオンライン教育推進協議会（JMOOC）理事
- コンピュータ教育利用学会 会長理事
- 日本マイクロクレデンシャル機構 副理事長 などを歴任

- 著書：『Opening Up Education』（MIT Press, 2008）[共編]、『ウェブで学ぶーオープンエデュケーションと知の革命』[共著]（筑摩書房, 2010）等